

SIIA 人材育成教育研修部会
花澤部会長、部会関係者の皆様

先週末(9/30)の 15:30 に、静岡大学静岡キャンパスで開催中の「オブジェクト指向設計講座」(第 6 回目)の閉講式に参加するため、閉講の前の時間に、同講座のご担当の塩見教授と1時間弱お話をさせて頂きました。

その内容は、理事会でも協議された「オブジェクト指向設計講座の受講者が毎年提言していて、本年度は『最小催行数』を下回る 6 名の受講(会員各社のご協力も頂きました)で、HEPT 様にも応分のコスト負担をお願いしての実施となり、次年度以降についてどうするか」というテーマをメインに、そこに関わる HEPT(静岡大学)と SIIA 或いは県や県内の同業種団体との連携の必要性にも触れる、大変内容の濃い話し合いになりました。

話し合いの概要を下記の通りお伝えいたします。

- ①浜松地区も各社の受講が一巡した感は否めず、受講は減っていることは確かである。
- ②HEPT としては、「オブジェクト指向設計」の旬がピークアウトしたとは考えておらず、受講者が減る原因として、共通の課題として、参加する企業から長期間人を出しづらくなっているのは、他の事例を見ても明らかである。
- ③現状の「オブジェクト指向設計講座」の内容を大きく変更する予定はないが、同講座の内容を「リファイン」することで、「データ分析」と「Python」あるいは「データ分析入門」といった内容に分けて、一つのコマを3日間程度のコースに仕立て直すことは可能である。
- ④今一度 SIIA 各社の技術需要の調査(マーケティング)も必要だと思われるが、その場合には、アンケートではなく個別の調査が必要になる。
- ⑤会員企業各社の技術ニーズは多岐にわたっており、現在 SHIP などで県も ICT 向け技術者教育に力を入れており、そのような外部の団体とも連携して、提供できるメニューを広げることも望まれる、そのためには、SIIA と東部、西部の同業団体或いは他団体との「コンソーシアム」化など連携も視野に入れて、同じ講習や研修が各団体で重複して開催するような無駄は省くべきである。
- ⑥9/29 に、静岡県職業能力開発課の「静岡県優秀技能者功労表彰(「情報処理」部門)説明会」が開催され、米良理事、齊藤副理事長(静岡東部 IT 推進協議会会長として)と事務局が参加したが、米良理事との間で、このような「優秀技能者(技術者)」を見出す方法が、今業界では IPA の「情報処理技術者試験」の「高度スキルレベル」をベンチマークにする程度しか判断材料がなく、他業界に比べてこのような評価基準や制度も未成熟なことも分かって来たので、これを機会に産学の間でこのような話もしていったらどうか、という話も出た。

以上、特に②～④に関しては、人材育成教育研修部会において、次年度の方向性を打ち出すためにも、早めの行動をされますよう宜しくお願い致します。